

黙祷の意味

校長 武井 正明

私が黙祷の意味について考えさせられたのは、中3冬休み明けの全校朝会だ。

司会の先生が突然、「N先生が年末にお亡くなりになりましたので、黙祷をします。全員起立!!…『黙祷!!』」とやった。

N先生は年輩の社会科教師。真面目を絵に描いたような人で、自作のノートをいつも大事に抱えて、それを授業中ひたすら板書していく、という授業だった。

ただ、その板書は物事の流れが把握しやすく、それを見れば大体が理解できるようなものだった。しかし、自分も含めて、大半の生徒は小馬鹿にしたようにN先生に接していたのを憶えている。

司会の先生の言葉に、ある生徒が「えっ!?N死んだんだって?おい、死んだってよう」と反応した。すると何人かの生徒が呼応して「N死んだんか。へえ～」と返した。次第に全体もざわついた。そんな中での黙祷だったので、酷いものだった。

あれは祈りでも何でもない。死者に対しての冒涔だと思った。いつもは適当に周囲に合わせていた自分だが、さすがにあの時だけは、同種の人間になりたくない気持ちが勝って、寒々しい心持になった。

それでは、誰が悪かったのか。

確かにふざけた言葉を発したその生徒が悪いと言えればそれまでだが、私は今この立場だから言えるのは、黙祷の意味をしっかりと教えなかった当時の教師たちにあると思う。

なぜ黙祷をするのか。

黙祷の時には、どのような気持ちで、何を祈るのか。そしてそれが人間社会ではどういう意味があるのか。これらを教師は、難しい言葉ではなく、理解しやすい言葉で、子ども達に指導する必要があったのではないか。

明日で東日本大震災から15年が経つ。2011年（平成23年）3月11日（金曜日）14時46分マグニチュード9.0の大地震が日本を襲った。亡くなった方は1万5千人を超える。

君たちには、一瞬で大切な人を失った人の心に1分間、寄り添ってもらいたい。

その人に、あなたならどういう言葉を掛けるか。自分には何ができるか。

普段の生活では忘れてのことだ。だからこういう時だけでも、当時の災害や被災した方々のことを思うことは、勉強よりも人としてひじょうに大切なことだ。だから、黙祷には大人も子どももない。みんなが1分間、真剣に、ただ想ってほしい。

明日の終学活で、黙祷を捧げます。

ご家庭でも、黙祷の意味についてお話していただければ幸いです。